

第4章 地域での市民・事業者の取り組み

1. 環境市民会議の取り組み

地域の環境をよくするためには、市民・事業者の皆さんの取り組みが鍵となります。

この章では、環境市民会議の皆さんが各地区においてそれぞれ調査した環境の現状と、一年間の取り組みを報告するものです。

皆さんが住んでいる地区の身近な環境について、知る、考える、行動するきっかけとなれば幸いです。

環境市民会議とは？

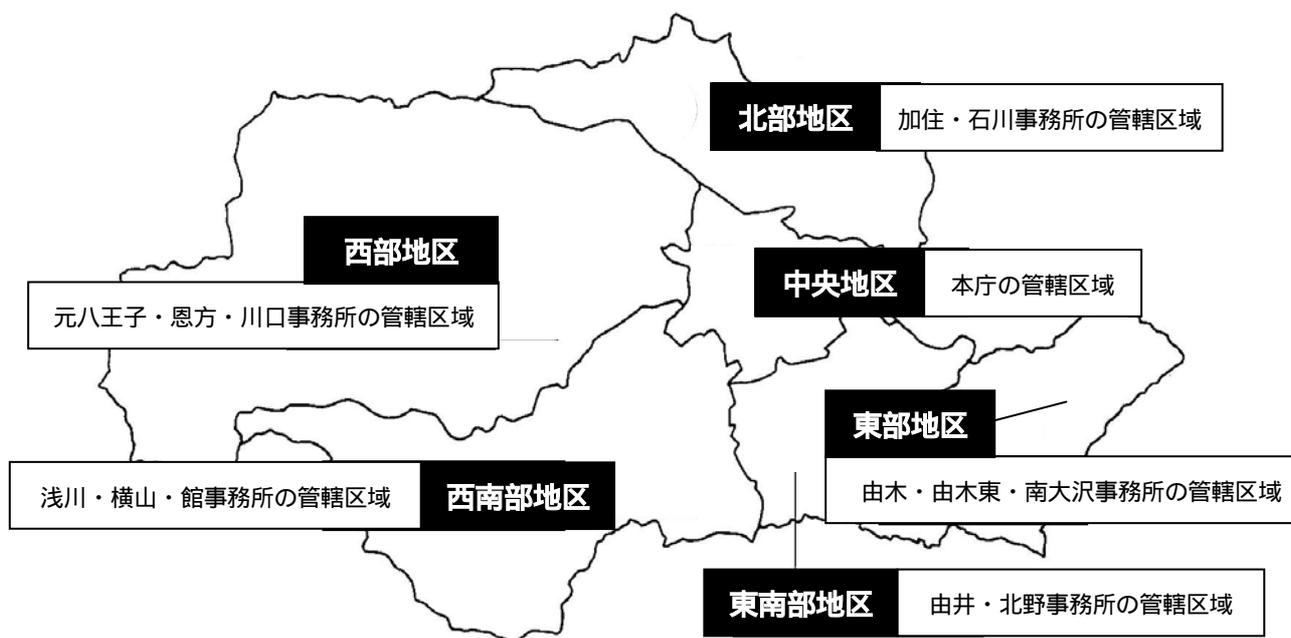
環境基本計画では、市内を6つの地区に分け、各地区ごとに目指す環境の姿を定めるとともに、地区の環境の現況・課題を整理したうえで、多くの課題から絞り込んだ重点課題と、その解消に向けた重点目標、重点取り組みを「地域行動編」として示しています。

その地区の一人ひとりの行動が最も重要ですが、その地区の取り組みの推進力となるのが環境市民会議です。環境市民会議は、市民・事業者によって自発的に環境保全活動を実践する組織です。

この計画の「地域行動編」は、この環境市民会議の皆さんによって策定されたものです。

地域行動編の目標を達成するためには、地区内の町会・自治会や各種団体との連携はとても大切です。

【環境市民会議6地区の区域】



中央地区環境市民会議

中央地区環境市民会議が調べた環境の現状

私たちが行った調査では、水質や大気汚染が年々改善されている反面、二酸化窒素の濃度が一部環境基準を上回っていたり、河川への不法投棄がいまだに多く見うけられます。

八王子の玄関口である八王子駅周辺の放置自転車やたばこのポイ捨てはキャンペーンや規制・監視等により良くなりました。

活動を重ねることにより、ごみの減量や省エネルギーに対する地域の方々の意識が高まり、関心をもってもらえるようになりました。

活動内容

環境フェスティバルでは、各部会が協力して出展し、多くの市民に中央地区環境市民会議の取り組みを紹介することができました。

河川環境

浅川巡回パトロールを積極的に実施し、会員に内容を報告するとともに、必要により関係行政へ報告と対応を要請しました。



町会と連携した浅川クリーン活動

中央地区の重点課題である浅川の清掃活動は、河川敷を重点に2回/年実施し、関係町会への告知と協力により多大な成果を得ました。第一回の11月には「浅川橋下流(右岸)の河川敷清掃実施」通知に呼応して、地元住民(約60名)による周辺の環境整備という大きな動きがあり総勢70名以上の参加を、第二回の3月には浅川合流点の川口川中野橋下(子どもたちが魚釣りや魚の群れを観察する場所)周辺を地域住民の参加も含め

24名で実施しました。結果をもとに管理行政への実態報告と対応を要請しました。河川環境は一地区だけで解決するものではありませんが、下流への影響を少しでも減らし、より良い水辺環境を確保し、誰もが親しめる浅川であるよう、これからも地道に努力していきます。

また、6月8日に全国一斉水質調査に参加し、浅川の浅川大橋と鶴巻橋直下の地点で水質調査を行った結果、水質は年々改善され、2地点とも「COD(mg/l)1」でした。

11月5日に浅川の外来植生(アレチウリ、オオブタクサ、キクイモ)の分布調査に参加しました。尚、外来植生の繁茂最盛期の8~9月に独自に調査し、分布マップを作成しました。

八王子浅川子ども水辺協議会への協力について、8月24日に開催予定だった第5回ガサガサ探検隊は天候により中止となりましたが、9月6日開催の水辺のかんきょう教室で、会員が活躍しました。9月13日に自然体験講座「第4回浅川ふしぎ探検」を企画し、親子あわせて63名の参加がありました。

中央地区に該当する小学校環境教育の支援活動を今年度から本格的に取り組みました。

大気汚染

大気汚染の測定を、10ヶ所について行ってきましたが、主要幹線道路の16号大和田小交差点のバイパスと20号バイパス大横町交差点など、これまでの測定の平均値が環境基準値を超える0.060ppm以上のものが確認された。一般住宅地の道路は低い値となっていました。

まちのみどり・まちの美観

「まちなかウォッチング」では、甲州街道から千人町西八王子駅付近のイチョウ並木通りは素晴らしいと感じました。次に、まちなかに入ると、アーケードはなくなりました。電柱の地中化や歩道整備は済みましたが、緑が少なく残念です。東方（明神町）に入ると多少の街路樹は大きくなり目を引くようになりました。八王子駅北口前の桑並木通りの樹木が大きくなると、緑多き公園通りに貢献すると思われます。再開発中の駅南側では、民地での緑が減少傾向にあるが、2、3年後には八王子駅の南北周辺を含めて、八王子のイメージアップに貢献ができればと期待します。



街中ウォッチングで巨樹巨木を訪ねる

なお、20年度は、永年の課題でもあったグリーンマップ「正式名称：中央地区環境グリーンマップ」を完成させました。

ごみの減量・資源循環

春はみずき通りフェスティバルや環境フェスティバルに、秋は子安・台町・大和田市民センターまつりやいちよう祭りに、冬は暮らしの見直し展に参加し、環境コーナーを設け、市民に正しいごみ分別の情報やごみの出にくい生活の話をして、環境のミニ情報が分かる環境クイズを実施しました。

北野のエコひろばでは定期的に環境学習見学体験ツアーを行い、多くの市民が清掃工場の見学とごみ分別体験を行いました。



いちよう祭りでの環境コーナー

地球温暖化

北野のあったかホールにある環境学習室「エコひろば」を拠点として地球温暖化防止の為に「省エネルギー教室」を6回実施し173名の市民参加があり、今の地球がかかえている問題を映像等により分かりやすく解説し、市民一人ひとりに何ができるのか具体的な行動例を挙げて説明しました。



エコひろばでの省エネルギー教室

北部地区環境市民会議

北部地区環境市民会議が調べた環境の現状

北部地区は加住北、南丘陵に挟まれた谷地川が流れており、この水質は下水道の整備に伴い改善されてきています。未だ中流、上流域にある一部の住宅の下水道接続は未了ですが、上流部のきれいな水に棲む生物が下流域でも見られ、また、カワセミ、サギ類、カモ類も良く見られる様になりました。

みどりの拠点である滝山公園、小宮公園、栗の須緑地の保全を関係団体と協力して行っており、中でも滝山城跡においては城郭の歴史を探り、環境保全を行う目的で下草刈りを行っている他、独自に作成したガイドマップにて啓発活動に努めました。

活動内容

水

八王子の最も北側を流れる谷地川は、北部地区の中央を横断する全長12.9kmの川です。

その谷地川の水質(COD値)と水生生物を2ヶ月に1回調査し、生物と水質の関係を確認しました。

毎年度末にまとめた結果を地域に発信し、地域の皆さんに関心を持っていただき、谷地川の水質の改善につなげていきます。



岩の入橋付近での水生生物調査



滝山城跡探索会の様子

みどり・生き物・景観

「滝山城跡群・自然と歴史を守る会」と協同し、滝山城址の景観を保護するため藪払いを行っています。藪払いを行った結果、新たな遺構が見つかりました。これについては、同会が主催するシンポジウムにおいて城郭研究家が詳しく報告をしています。

八王子のルーツである滝山城址の歴史的価値を広く市民に知っていただくため、探索会なども行っています。

ごみ

2ヶ月ごとに市内の町単位（5～8町）で、不法投棄の巡回パトロールを実施しました。

毎回、同じコースを回り、不法投棄の状況を調べました。その結果、投棄が行われる場所の傾向がつかめました。また、調査の結果を市に報告し、撤去を依頼することで、徐々に改善の方向にあることを確認できました。

また、3月には谷地川の滝山橋～城山下橋間で清掃活動を実施しました。



谷地川清掃



集まった大きなごみ

大気

簡易カプセルによるNO₂の測定を、国道16号バイパスや滝山街道などの幹線道路を中心に、22～24ヶ所で夏・冬の2回実施しました。

住宅地では環境基準値を下回っていますが、交通量の多い国道16号や同バイパス、国道20号では大きな値となっていました。

この大気測定結果を八王子大気汚染測定ネットに報告することで、各地区市民会議や独自に測定されている市民の方々のデータと比較しています。

環境教育

小学生の時から自然環境に関心を持ち、科学の好きな人材を育成する必要があると考え、小宮小学校の4年生を対象にした総合学習（環境教育）で、多摩川の水質や水生生物、河原の植物や化石などの川の様子を調べる活動を支援しました。

小宮小学校では、7月と10月に実施し、他の小学校の環境学習にも協力をしました。



多摩川の水生生物調査の様子



鳥類調査の様子

西部地区環境市民会議

西部地区環境市民会議が調べた環境の現状

古来より発展してきた地域は歴史・文化も数多く残り、豊かな自然に恵まれ、多様な生態系が形成されています。

近年は、大規模開発や農林業の高齢化と後継者不足で森林荒廃や農地の宅地化が急激に進み、恵まれた自然環境も大きく改変しています。

地域を流れる醍醐川、案下川、大沢川、城山川、小津川、山入川、川口川などは浅川の重要な源流として位置付けられていますが、自然地の保水力や浸透性が低下し湧水の枯渇や河川流量の減少による瀬切れの発生箇所が増えている事態が懸念されています。

また、市街化区域では生活排水が流入して河川の水質悪化が大きな問題になっていましたが、下水道整備と市民の環境意識が高まり、徐々に水質改善が図られてきています。

不法投棄については相変わらず山間部では不法投棄が繰り返され、一般道や河川にもポイ捨てが目立ち、町会・自治会・事業者・行政との更なる働きかけや連携が必要になっています。

こうした環境問題の解決には、市民一人ひとりの協力や連携が大切であるということを経験市民会議の活動を通して地域に働きかける取り組みと役割が重要になりました。

活動内容

自然体験講座

11月に「八王子城跡とその周辺を歩く」を実施しました。八王子城跡とその周辺の歴史的遺構を散策しつつ八幡神社宮司や地元歴史資料館館長の説明を聞いたり、野鳥を探索しながら晩秋の一日を楽しく過ごしました。取り組みは地元町会、神社、地域協力者などと連携し計画立案を行い、参加者はスタッフを含め総勢で70名を超えました。今後も多くの市民が参加できるような、魅力的な企画を検討していきます。



御主殿にて

学校と連携した農業体験活動（川口地区）

川口小学校と連携して谷戸田を活用した田植え、稲刈、脱穀、そして収穫米を精米して餅つきを行いました。田植えから稲刈りまで、身近な環境にふれながらの自然体験と農業体験は子どもたちの笑顔が最高に輝いていました。脱穀作業は一昔前の千刃扱き、足踏み式での作業の大変さを体験、そして、最近のエンジンを装着した脱穀機の処理能力の早さに参加者は驚きました。全4回の農業体験には子ども、PTA、先生、地域の協力者の方々など参加総人数は150名を超えました。



田植え



脱穀・千刃扱き



餅つき

川口川実踏調査（川口地区）



源流域の堰堤

川口川源流域までの定点観察場所を決める予備調査を兼ね、7～9月に7名で4回に分け、全行程を徒歩で実踏調査を行いました。調査では、CODパックテスト（D）排水口の実態、周辺環境、瀬切れの発生箇所や地域住民からの細かな情報を収集しました。今熊神社の駐車場付近では瀬切れが確認され、上流域での流量低下は深刻な事態です。今後は、定点観察（平常時・湧水時、年2回）の継続調査をデータ化して河川環境の変化としてまとめていきます。

レジ袋削減とマイバッグ普及に関する意識調査（川口地区）（恩方地区）



川口商店会まつり

川口地区は、10月13日の川口やまゆり館で開催された川口商店会まつりで、恩方地区は10月25日に開催された恩方市民センターまつりでレジ袋削減とマイバッグ普及のアンケート調査を実施しました。川口地区は175名、恩方地区は108名から貴重な回答が得られました。川口地区はレジ袋を廃止すべきという回答が66%、恩方地区は48%という結果でした。今後もレジ袋削減に向け継続活動を進めながら、地域浸透を進めていきます。

小田野公園の美化活動（恩方地区）



小田野公園 除草

小田野中央公園の除草・剪定作業に環境市民会議のメンバー5人を含む34名が集まって作業を行いました。ゴミ拾いなどの公園美化活動にも参加者が増え、手づくり公園の活動は段階的に地域に活動の環を広げていっています。地域の協力で公園はきれいに保たれていますが、公園内にバイクを乗り入れ走り回ったり、ロブ柵のロープを切断するなどの悪戯が目立ち、その対応策と問題解決に取り組んでいます。

大沢川のクリーン活動（元八地区）

大沢川（城山川支流）は、八王子市内の河川の中でワースト3に入るほど水質の悪い川になっています。さらに、不法投棄やごみのポイ捨てなどによる漂流ごみが目立ち、平成20年3月より中流域の柳橋から恵橋までを年3回（3月、6月、9月）ごみ回収を行いました。

平成20年度は大沢川流域町会（式分方・千本木・関口）・浅川に清流をとりもどす会・元八王子中学校生徒など105名が参加し共同作業の結果、ごみ21.7m³を回収しました。

また、漂流ごみが付着し景観を障害する河川敷の灌木（桑・くるみ等）も伐採しました。

なお、6月には全国一斉水環境調査に初めて参加して大沢川、城山川の水質検査では、CODパックテスト（D）を実施しました。この調査は今後も継続していく予定です。

ホタル保存会の活動（元八地区）

4年前、城山小学校東側の小川でホタルが発見されたことをきっかけに、元八王子二丁目町会、城山小学校関係者の有志で「城山小地区ホタル保存会」が発足しました。

保存会の活動は、地域住民との協働で毎年5月に川掃除、6月にはホタル講座と鑑賞会を開催し、地域の子どもたちに自然を大切にする意識を啓蒙しています。

平成20年度のホタル講座には、近隣の親子50人が参加しホタルの生きられる環境について知識を深めました。

今後も地域の貴重な財産であるこの環境を守りたいと考えています。



ホタル講座

西南部地区環境市民会議

西南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

高尾山を中心とする豊かなみどりに恵まれた地区ですが、町田街道などの大気汚染、一部河川の汚れ、山間部における不法投棄と取り組まなければならない問題を抱えています。特に最近、高尾山の入山者が大幅に増え様々な環境問題が発生し、高尾山の貴重な自然が損なわれると危惧されます。また、現在建設中の圏央道による環境への影響が懸念され、騒音、大気汚染及び動植物などの自然環境を監視していく必要があります。

地域全体の取り組みとしては、地域を一つの博物館と考え、身近な自然や文化遺産等を市民の手で保存・展示し、学んだりすることのできる「エコミュージアム構想」に取り組んでいます。また、現在市が検討を進めている旧高尾自然科学博物館跡地の「高尾の里拠点施設」の設計・運営等に対して、市へ積極的に働きかけています。

地域の啓発活動にも力を入れており、市民センターまつりで取り組み課題を展示し、いちよう祭りでのごみ分別指導など、積極的に進めているところです。

活動内容

高尾山の保全

毎年定期の環境指標植物15本の樹勢調査(3月)、日影沢の水生物調査(10月)及びセッコク(6月)やシモバシラ(1月)の観察会で高尾山の環境変化を追跡しております。その際、目視観測や写真にて記録しています。



指標植物調査



高尾山は泣いている

最近、高尾山への入山者が急激に増加し、自然への悪影響が心配されます。早急に専門家による調査団を結成し、実情調査と保全方法の提言をして頂き、それに基づく取り組みが必要です。

エコミュージアム

地域の宝を掘り起こし、再認識しようと高尾・東浅川・長房町の北部地域(7月)で地域の宝起しウォーキングを一般市民も参加して行ないました。前もって下見を行い、コース案内図と地域の宝ガイドを作成し、当日、参加者に配布しました。



日影沢水生生物調べ

里山保全



宝起しウォーキング

寺田地区の里山調査は、計画のみで終わってしまいました。里山関連の法律、条例を調査しました。

「池の沢に蛍を増やす会」と協働で、下草刈りや植樹等の里山保全活動を行ないました。

市民や子ども達に里山の素晴らしさを体験して頂く「蛍観察会」(6月)、「子どもみどり体験八王子」(7月)、「自然体験講座」(4月、9月、11月)、「野鳥観察会」(3月)を「池の沢に蛍を増やす会」と共催で実施しました。

東南部地区環境市民会議が調べた環境の現状 「ふるさとの八王子を美しい街に！」

東南部のみどりは、みなみ野ニュータウン開発が一段落しましたが、周辺域での小規模開発によりみどりが減少し、手入れの行き届かない放置された里山が見受けられます。

東南部の浅川水系の河川水質は、少しずつきれいになって来ていますが、12月の下中田橋では「大変汚い」COD値8を示しています。河川へのゴミのポイ捨てが目につき、定期的な川の清掃活動や水質浄化の努力を流域町会との連携で行う事が大切です。

定期的な街や道路の清掃活動も芽生えつつあります。打越中学校や日本水産(株)による清掃活動の成果は、きれいさ評価のデータ上でも顕著に現れています。湯殿川の定期清掃にも取り組んでいます。

大気汚染として、20年度は東京都一斉NOx測定に2回参加しましたが、昨年度より数値の悪い場所が多く今後とも大気汚染防止の必要があります。

活動内容

環境学習・啓発活動

夏休み恒例、都立片倉高校の「奉仕体験 - 環境分野」を2年生と行いました。通学路のきれいさ評価、湯殿川の水質調査や河川清掃、大塚山公園の雑木林の清掃と保全、そして大気汚染測定の奉仕活動を行い、環境について自分達に何が出来るかを考え実践してもらいました。



10月に秋の自然体験講座(北野・打越・長沼の自然と歴史を探そう)と3月に春の自然体験講座(片倉城跡公園と周辺めぐり)を行い、合計参加者23名(子供2名)、スタッフ26名、計49名と大盛況でした。

参加者からは、「自然の良さに気付かされた。いつも何気なく通り過ぎている場所にいろいろな意味があることに気付かされました。素晴らしい企画なので、もっと大勢の

人の参加を促したい。」と感想をいただきました。秋の自然体験講座(北野・打越・長沼の自然と歴史を探そう)のコースを拡張したハイキングマップ第2集 小野路道/多摩丘陵ハイキングマップを11月に発行し、市民センターで市民の皆さんに配布し活用していただいています。また、大塚山の間伐竹を使った「スーパー竹とんぼ教室」を5月、7月、8月、10月、11月、2月、3月の7回延べ197名の子ども達と行き、みどりの保全の大切さを学びました。



河川・水質



6月(全国一斉)と12月に調査を行い、浅川、山田川、湯殿川、兵衛川など計12ヶ所の水質は少しずつきれいになってきています。12月には、エコひろば前の浅川で「エコキッズ水質調査隊」を親子の参加で水質と川の生きもの調査を行いました。4月の浅川・湯殿川クリーンデー、7月の湯殿川クリーンデー、9月のみんなの川の清掃デーを流域町会の打越町会、長沼町会、北野町会、片倉町会の皆さんと行い、川に関心を持ち、川を美しくする活動に大きな成果を上げました。親子自然教室「八王子の源

流を知ろう - 兵衛川」や水辺環境視察会を行い、川づくりについて学びました。

みどり・歴史景観

片倉台と北野台のみなさんと、絹の道の拠点の大塚山公園や御殿山尾根道を美しくする活動を行い、絹の道ハイキングマップを配布し、絹の道の散策を楽しんでいただいています。4月には八王子テレメディアの「絹の道拠点の大塚山公園美化清掃活動」のテレビ撮影、21年3月には日経新聞「絹の道(東京・八王子)くぼみ刻んだ人馬の歳月」の記事の取材を受けました。



ごみ分別・収集・リサイクル

市のごみ組成分析に立会い、データを分析、分別徹底の啓発資料を作成しています。紙ごみの資源混入率が5%以下になることが望ましいと思っていますが、現在入手したデータから、市全体としては、可燃物の紙資源混入率は20%ですが、家庭系可燃物の地域別紙資源混入率は3~27%、事業系の規模別紙資源混入率は2~66%とかなりばらついています。重点的な調査対象・調査数を定めて紙資源混入率を調べ、そのデータを有効に使うことはごみ減量・資源化に大いに役立つと思われます。

組成分析データの分類はかなり細かく、分別徹底を図る目的にはそのうちの資源混入率のみを調査すればよいので、今後とも注目して行きたいと思います。

ごみのポイ捨て・都市の美観

19年1月から歩きたばこ禁止条例が施行されました。東南部地区(北野・由井事務所管内)の6駅周辺道路19ヶ所でのきれいさ評価(ごみ拾い、分類、カウント)は6年目で、条例への期待は大きいものがあります。条例周知のポスター掲示、直射日光で退色したポスターの張替えを実施しました。データ上は条例の効果は、まだ顕著ではありません。

たばこの吸殻は、信号機周辺、橋の上など、人がちょっと立ち止まるところに多く、ポイ捨ては植え込みや水抜き穴の中が目立ちます。打越中学校や日本水産(株)による団体清掃活動の成果はデータ上にもはっきり出ています。また都立片倉高校も通学路の清掃を行っています。

駅はまちの玄関であり、利用する人みんなできれいにしたいものです。

大気・騒音・地球温暖化防止

年2回のNOx簡易測定と平行して、都立片倉高校の大気汚染測定や由井第一小学校の大気の大切さの勉強会を実施し、また環境フェスティバルでは地球温暖化防止に役立つケナフの苗や種を配布し、各家庭で育ててもらい環境への市民参加の場づくりを行いました。



東 部 地 区 環 境 市 民 会 議

東部地区環境市民会議が調べた環境の現状

東部(由木)地区の南側は多摩ニュータウンとして、又、北側は多摩丘陵が東西に走り市の特色としてのみどりの景観を、それぞれ形成しています。

この地区の生態系は多摩丘陵の里山を維持することで守られています。残された里山で、多摩ニュータウン「最後の未開発地」であった堀之内地区の面積5.2ヘクタールの地域が、『堀之内寺沢里山公園』として整備されて、7月末に八王子市に移管され、隣接の「19住区東山地区」の開発も緑の保全を重視した計画が進められています。

さらに、堀之内の里山について、東京都の自然保護条例による里山保全地域指定への動きが活発化し、平成21年3月26日に、保全計画が決定されました。

大気と河川の水質については、八王子市全地区に係わることであることから、NO₂の測定及び大栗川・大田川の水質調査を継続し、関係団体と連携しています。

活動内容

自然環境

本年も、「多摩丘陵の自然を守る会」の協力を得て、春・秋に『自然観察会』を実施し、11月は、『自然体験講座』として、野猿峠バス停に集合し、中山地区を回り、白山神社までの自然観察を行いました。

また、南大沢2丁目の「南大沢東緑地」に八王子市の花『やまゆり』が自生しており、居住者らが【山百合の里】の立札を立てて保存しているので、指定管理者とも協力し、保存活動を行っています。



『自然体験講座』
秋の多摩丘陵を歩く

美化・ごみ・エネルギー

南大沢駅前の遊歩道に設置してある22基の「花壇」については、東京都の開発が終わって八王子市に移管にされてから、地元の有志による「南大沢みどりのサポーターの会」が、15年からボランティア活動として維持管理を行ってききましたが、20年度に八王子市の道路アドプト制度に加入することになりました。

また、不法投棄は、わずかに減少傾向が見られますが、ゲリラ的に発生するので、不法投棄を一層減少させるためには、継続的な市民・事業者への啓発活動や市への提案が必要です。

なお、南大沢市民センターまつりにおいて、最新のごみ問題・リサイクル関連情報の展示と説明による減量啓発キャンペーンを行うなど、住民の関心を高める活動を続けています。



『南大沢みどりのサポーターの会』
の活動

環境にかかわる実践活動

20年度から、「市立学校の環境教育支援活動」に取り組み、『環境学習室』との連携のもと、各地区環境市民会議の会員の協力を得て、「由木東小学校」、「松が谷小学校」、「上柚木小学校」に対して、大栗川、浅川などでの「環境教育支援活動」を行っています。

また、「長池公園」で活動する『長池里山クラブ』では、里山の“萌芽更新”に「チェンソー」を使用することから、事故防止と技術の向上のため「チェンソー講習会」を行いました。



「市立学校の環境教育支援活動」



「大栗川（さんもり橋付近）」

河川・水質

今年も、6月に「全国水環境マップ実行委員会」や「浅川流域市民フォーラム」などと協力して、水質調査を実施しました。

そのほか独自に、環境診断士のグループによって、3カ年計画で、大栗川と大田川や由木地区の池6ヶ所の水質の実態調査を行っています。

また、会員により、大栗川の多摩川合流点から源流までの間の“橋”を基準とした調査結果を、12月の定例会に引き続きパワーポイントにより『大栗川の多摩川合流点から源流までの川観察』として説明が行われました。

大気汚染

毎年、6月と12月の2回、都内全域におけるNO₂の調査を他の環境市民会議と協力し、データの収集を行っています。

今年も、6月5日から6月6日にかけての「第62回NO₂全都一斉測定」と、12月4日から5日にかけての「第63回NO₂全都一斉測定」に参加しました。

その結果の数値については、原因と結果の分析が必要と思われる。

これからも、他の団体と連携を図りながらデータ収集を行っていきます。

また、自動車やバイクについては、アイドリング・ストップの励行、低公害車の購入・使用、ディーゼル車の排出ガス規制などを広く啓発していきます。



多摩ニュータウン通り「内裏橋」交差点

地域行動編評価一覧

環境基本計画における地域行動編の20年度の活動について、6地区の環境市民会議が各々内部で評価したものを、環境推進会議で相互に評価するものです。

【中央地区環境市民会議 総合評価】

<環境市民会議での内部評価>

定例会等を軸に、環境学習・リサイクル推進協議会、環境推進会議、市の環境マネジメントシステムへの支援や環境フェスティバルへの出展等多くの市民へ環境保全問題を提示した。

また、河川のパトロールに重点をおき、川の環境保全のため、行政機関や地域町会自治会などと連携を深め、八王子浅川子ども水辺協議会を育て、環境教育支援も活発に進められた。

大気汚染では、34ヶ所の測定で4ヶ所は基準値を上回ったが、他は基準値以下であった。

まちなかの環境ウォッチングの回数を重ねることで、グリーンマップの資料の収集・作成ができ目標を達成した。これをもとに、きわめて少ない緑被率向上の活動を継続する。

路上のごみやたばこのポイ捨ては少なくなって、まちなかはきれいになってきた。

ごみの減量化、資源循環、地球温暖化防止などの活動は活発で、各地域での環境コーナーも頻繁に繰り返され、特にエコひろばでの教室は大きな成果を上げられた。

<環境推進会議での評価>

地域にあるお寺や神社のみどりなどを地図に落した「中央地区環境グリーマップ」作成したことは評価できる。今後は、マップを活用した事業を展開していただきたい。

また、河川環境については、河川パトロールや水質調査をはじめ、子どもの水辺協議会への参加など幅広く活動しており、今後も良好な河川環境の保全のための取り組みを進めていただきたい。

更に、温暖化防止に向けた省エネルギー教室やイベントでの環境啓発、水質・大気調査など活発な活動を実施し、効果も出てきていることから、地域を巻き込んだ環境保全活動を推進していただきたい。

【北部地区環境市民会議 総合評価】

<環境市民会議の内部評価>

水・大気分野では、独自に継続的な測定を実施しデータを蓄積中で、今後の分析や、環境の改善策を行う際に役立つものと思われる。

ごみの分野では、定期的に不法投棄の巡回パトロールを実施し、市役所へ報告するなどの対策をとることで、徐々に改善がみられた。

他の分野については、数名の会員では独自の行動を行うのは難しい面もあり、エコひろば活性化委員会、もったいない委員会、湧水マップ作成委員会、八王子に清流を取り戻す市民の会、八大緑遊会、滝山城跡群歴史・自然を守る会、学校における環境教育等々に協力し積極的な活動を行った。

各人が、最も得意とする分野で活動し実績を上げるのは、効率的であり価値あるものと思われる。

<環境推進会議での評価>

水や大気等の調査について熱心に活動しており、また、その結果を地域に発信しているのは評価できる。

不法投棄のパトロールでは、継続的な活動の結果、着実に効果が現れており、今後とも良好な地域環境に向けた取り組みに努めていただきたい。

滝山城跡の保全活動や小学校での教育支援などの活動は地域貢献に大変有効であり、引き続き積極的に取り組んでいただきたい。

【西部地区環境市民会議 総合評価】

<環境市民会議の内部評価>

川口・元八・恩方の地域特性を生かしながら、町会・自治会、事業者、学校との連携した取り組みが少しずつ具現化して成果が現れてきている。地域間での取り組み内容や活動回数にはばらつきが見られるものの、環境市民会議の在り方、組織力、活動に関する地域内での周知方法等に問題があることも分かってきた。

活動内容には啓発活動や調査活動など様々な取り組みが考えられるが、身近な環境問題に地域が目を向けてくれる題材や活動の掘り起こしを図り、地域活動では環境市民会議が潤滑材の役割を果たしていくことが望ましいが、まだその状況には到達できていない。

今後の活動には、町会・自治会・事業者、学校と連携した取り組みを最重要課題と位置づけ、そのための情報発信や会員増強に向けての取り組みを進めながら、新たな活動に向けての基礎固めを行っていく。

<環境推進会議での評価>

3つの地域に分け、その地域と連携を図りながら地域特性を活かした活動の成果は着実に上がっており、評価できる。

そうした中、地域の小学校と連携した農業体験活動やホテル保存会の活動などは子ども達に貴重な体験を積ませる良い機会でもあることから、今後も継続していただきたい。

また、レジ袋削減活動や地域での美化活動にも熱心に取り組んでおり、効果も着実に上がってきていることから、地域全体を巻き込みながら引き続き積極的に取り組んでいただきたい。

更に、自然体験講座は、毎年盛況であることから、地域の魅力をその地域の人が再発見できるよう、これまでも増して工夫をこらした企画を立て、取り組んでいただきたい。

【西南部地区環境市民会議 総合評価】

<環境市民会議の内部評価>

エコミュージアムマップ「市街編」と「高尾編」や「地域の宝ガイド」の活用を図ったほか、圏央道建設に伴う環境変化を観察するため、高尾山の環境指標樹木の写真による観察記録の継続や池の沢館町緑地でホテル観察会、自然体験講座や企業研修を実施し、一定の成果を得た。

また、市が検討を進めている旧高尾自然科学博物館跡地の「高尾の里拠点施設」の設計・運営等に対して市に対して、多くの人に親しまれる魅力ある施設とするように働きかけている。

河川の水質検査と大気汚染測定、また、水質改善に伴う蛍の復活調査を行い、その結果を市民センターまつりで展示し好評を得た。

ごみの減量に関連して、公園の落葉や生ゴミの堆肥化を実践しているほか、いちよう祭りでは都立八王子桑志高校の生徒を指導して、ごみの分別の意識向上に努めた。

最近高尾山の入山者が大幅に増え、貴重な自然環境が損なわれる恐れがあり、何らかの対策の取り組みが当会の大きな課題となっている。

<環境推進会議での評価>

地域の方や子ども達が参加した「蛍観察会」や「自然体験講座」、「地域の宝起し」など、熱心な活動は地域再発見になる取り組みなので、今後も工夫をこらし実施していただきたい。

また、水質調査や大気測定については、引き続き実施していただき、市民への周知に努めていただきたい。

更に、ごみ減量の取り組みについては、生ごみの堆肥化の実践をはじめとして、市民センターでの展示・啓発やいちようまつりでのボランティア指導などの活発な活動を行っており評価できる。今後も積極的に取り組んでいただきたい。

【東南部地区環境市民会議 総合評価】

<環境市民会議の内部評価>

地域の環境学習支援で、片倉高校の奉仕活動支援や秋春の自然体験講座、親子自然教室などを実施したほか、みどりの保全について近隣自治会と連携し、ハイキングマップ（新たに小野路道・多摩丘陵コースを制作）を活用して地域の自然と歴史に親しんでいただく活動を行った。

河川水質がきれいになってきている中、流域町会・自治会と協働で河川清掃を行い、美しい川・親しみやすい川・遊びたい川づくりに取り組みたい。

一層のごみ減量を実現するため、組成分析のデータ内容を研究した結果、資源混入率を主目的にした調査のしくみづくりが重要とわかった。

学校・事業者による定期清掃の結果が「きれいさ評価」からも読み取れる。道路沿いの家屋・事業所等が共同で周囲をきれいにする環境とたばこのポイ捨て防止に取り組んでいく。

また、大気汚染測定から、子ども達の大気の大切さの学習や地球温暖化防止を啓発していく。

<環境推進会議での評価>

高校生の奉仕体験活動をはじめ、秋春の自然体験講座の実施、ハイキングマップの制作・活用など幅広い視点で積極的な活動を展開しており、今後も地域の方々を巻き込んだ企画及び取り組みを期待している。

また、清掃活動は、小中高校及び事業者にも広がっており、今後も地域の中で輪が広がっていく様積極的に取り組んでいただきたい。

さらに、大気汚染測定や地球温暖化防止など、引き続き取り組んでいただくとともに、今後も「ふるさとの八王子を美しい街に！」を目指して努力していただきたい。

【東部地区環境市民会議 総合評価】

<環境市民会議の内部評価>

里山づくりをはじめ、春・秋の自然観察会や巨木調査などは計画どおりにできた。自然観察会は自然体験講座とし、中山地区を巡り、希少種のタマノカンアオイやキンランなどが観察でき、市民の関心を高められた。

また、堀之内寺沢里山公園が整備され、主体である地元町会と公園アドプトに参加するとともに、自然環境の保全と里山の継承活動を行った。

市民センターまつり等でのごみ減量啓発キャンペーンの実施、年3回の「クリーンデー」への参加、南大沢駅前の花壇の維持管理など、地域の美化に努めたほか、「由木東小学校」、「松が谷小学校」、「上柚木小学校」で環境教育支援活動を行った。

大気汚染測定や河川水質調査は継続的に行っているが、東部地域独自の“ちえっくどう難易度2、3”を用いた河川定点観測を3年目の20年秋に終了し、その結果を定例会で報告した。

<環境推進会議での評価>

小学校への環境教育支援については、生徒達が地域の環境を体験できる良い機会でもあるので、今後も継続して取り組んでいただきたい。

また、里山保全については、新たに整備された地域もあることから、地域の方と協働で良好な環境保全に向けた活動を活発に展開していただきたい。

そのほか、河川の水質や大気汚染の調査、不法投棄の把握や美化活動など、引き続き地域の環境づくりへの貢献をお願いしたい。